

域内学力向上担当者等研修会

10月10日（火）、「域内学力向上担当者等研修会」を以下の内容で開催しましたので、お知らせいたします。

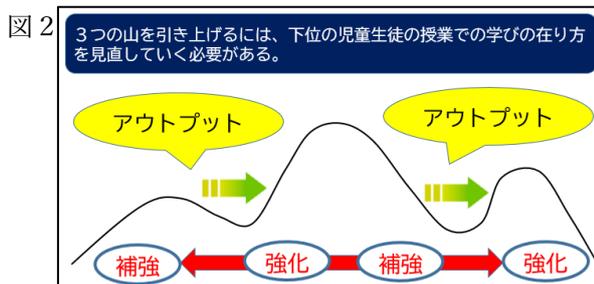
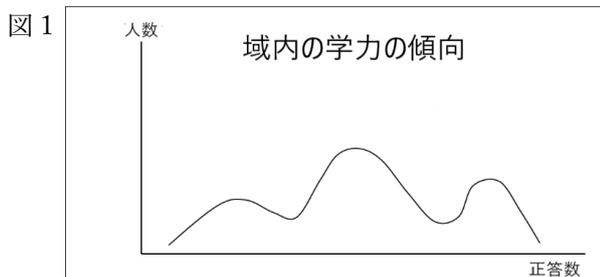
講義Ⅰ「全国学力・学習状況調査」、「ふくしま学力調査」の域内における調査分析

域内の結果をグラフ化して見えてきたこと

図1は、全国学力・学習状況調査の域内の結果から見えてきた傾向をグラフで示したものです。

分析すると、3つの山に分かれており、学力に格差が生じていることがわかります。参加した先生方に、どのようなグラフの形になることが理想なのかを考えていただいたところ、下位の子供を中位に引き上げたい、中位の子供を上位に引き上げたいなどの意見があがりました。そして、**分からないところを分からないと言える場面設定**、友達が何が分かるようになったかを聞き、**自分に足りなかった考えに気付く**などの場面設定が大切であることを確認しました。

例えば、図2のように授業の振り返りで学んだことを隣の友達に話すなどのアウトプットの機会を意図的に設け、学びを互いに補ったり、強化したりすることが大切です。



講義Ⅱ「自ら学ぶ子供の育成リーフレット」をもとにした各校の実践紹介

要請訪問等で見ることができた実践について、紹介しました。

- アウトプットを重視した取組（館岩中学校・明和小学校）
- 生徒指導の機能を生かした授業づくり（江川小学校）
- 板書の工夫（南会津中学校）
- ICTの活用（只見中学校・田島第二小学校）
- 具体物の提示（檜枝岐小学校）

また、各校で検討してほしい内容について確認しました。

- 学級全員がアウトプット（発言）する場を設けているか。
- 思考を止めてしまう教師の関わり方はないか。
- 板書は子供の思考を促し、整理するものになっているか。

（板書の意味・・・「記録する」、「整理する」、「思考を促す」）



感想用紙から

- ・実践紹介から、子供同士の話し合いの有効性、板書の機能が分かった。
- ・子供の聞き合う力を高めていくためにも、全体で発表する際には友達に向けて話す意識付けをしていく。
- ・教師主導の授業ではなく、子供たちが話し合い、つないでいくバレーボール型の授業になるよう、子供にあずける勇気も大切だと感じた。
- ・「思考をとめてしまう教師の関わり」にはっとさせられた。教師主導の流れが子供たちの思考を邪魔しているということ、教師が理解し、改善していかなければと思う。

実践紹介「学力向上支援アドバイザーとしての取組」 南会津町立荒海小学校 大桃 豊 様

算数・数学について、教員の授業力の向上を図り、児童生徒の資質・能力の向上を図ることを目的として、今年度より新たに配置されたのが「学力支援アドバイザー」です。南会津町内4校（荒海小学校・田島第二小学校・館岩小学校・伊南小学校）を兼務し、各校のニーズに応じた学力向上のための支援にあたっていただいております。

大桃先生からは、授業で陥りがちである課題パターンについて説明していただきました。

(1) スピード重視、短距離型

…結論だけがインプットされて、本質を理解していない子供をつくる

(2) 懇切丁寧、手取り足取り型

…依存性の高い子供をつくり、学習意欲が削がれる子供をつくる

(3) 創造性に溢れる、独走型

…反応やつぶやきを拾うことができず、思考しない子供をつくる

(4) 大人目線、一方通行型

…教師の指示が難しく、内容を理解していない子供をつくる



感想用紙から

- ・南会津町の授業の傾向と自分自身の授業の傾向が分かった。子供の学力向上に向けて、もう一度自分の授業の見直しと点検を行いたい。
- ・授業のルールは、低学年の頃から定着させていかなければいけないと思った。一対一にならないように、聞く力をつけさせたい。
- ・子供たちが主体的に関わり対話的に授業に臨み、ねらいを達成していくためには、教師はどのようなことに気をつけばいいのか、大変参考になった。
- ・実践、経験に基づく話で、うなずけることばかりだった。中学校でも大事にしなければならないことだと思った。

グループ協議 自校における学力向上の今後の取組について

前半は「自ら学ぶ力」を育むための「全国学力・学習状況調査」分析・授業改善・充実シートをもとに、中学校区に分かれて情報交換を行い、後半は、学校の実態から「自ら学ぶ子供の育成リーフレット 8つのポイント」をもとに、「つかむ」、「深める」、「まとめる・振り返る」の3つのグループに分かれて協議を行いました。

感想用紙から

- ・小中連携を考えたときに、中学校1年生から子供たちが新しい集団で学習を進めるためにも、中学校区の話合いは、とても有効であると感じた。
- ・前半と後半の話合いにおいて、似た現状の学校からの様々な取組が聞くことができ、大変参考になった。
- ・短い時間ではあったが、各校における課題やその解決のための取組を聞くことができ大変参考になった、
- ・子供の発表の中から質問を子供に投げかけたり、話合い活動の中で反応しながら聞いたりすることなど、参考になる活動が多く挙がった。明日からの授業に取り入れたい。

11月から3月は、課題解決へ向けた集中的な取組期間です。各校で重点化、焦点化する指導内容を全教職員で共有し、継続的に進めていただければと思います。

福島県教育庁南会津教育事務所 学校教育課

TEL 0241-62-5255 HP <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70510a/>

